

“唐丹希望基金の祈り”

鎮魂と平和の笛壺「フレイヤーホルン」と共に世界へ！！



人生の旅路は

喜びで幸せに満ち溢れるときだけではありません。
困難、挫折、悲しみ、苦しみにも遭遇します。

どんなに険しい上り坂も、喜びにあふれ幸せな時にも
「真実な道」を求めて進む先に
愛と感謝に満ちた世界があることを忘れないでください。

あなたが「鎮魂と平和」の心を失わずに生きる姿を

フレイヤーホルン は応援します。

★悲しいとき、ハソウを吹いてください。

多くの人々が悲しみを乗り越え、そして
あなたがここに存在することを感じ、
元気が出るでしょう。

★うれしいとき、ハソウを吹いてください。

喜びが大きくなり、更に前へ進む気持ちが
湧きあがるでしょう。

★ハソウに花を活けてください。

あなたの部屋が清らかさで満ちるでしょう。

★ハソウを友とし、元気に生きてください。

あなたの未来はきっと明るく幸せなものになるでしょう。



「愛の あいうえお 運動」



(提唱者 堀泰雄)

世の中大きく **愛** を広げる運動

子どもたち皆に **生** きる力運動

震災を忘れない **歌** を広げる運動

笑顔でつながる **縁** を深める運動

世界へ、後世へ **恩** 送りする運動

鎮魂と平和の思いを**ハソウ**に託す運動

「**魂**ハソウを通じて「平安の心」をあなたに贈ります！」



魂ハソウは、5世紀頃、朝鮮半島の新羅から伝えられた須恵器の技法で作陶された焼き物です。

古墳から出土するハソウは、国立博物館で見ることが出来ます。上部はラップ状、下部は丸く、小さな穴が開いています。考古学では、「酒器」ということになっていますが、この穴に息を吹き込むと、不思議な音がするので「笛壺」と呼ばれることもあります。

ハソウは、大きさによって音程が違い、一緒に吹くと共鳴し、聞いている人の心に響き、安らかな気持ち広がります。

備前焼の作家好本宗峯は、備前市佐山に窯を開き、備前焼の源、須恵器の復活に取り組み、平成5年、ハソウの復元に成功しました。

現在、宗峯の「平安」の心と須恵器の技法は子息の好本敦郎に受け継がれています。

在原業平の菩提寺、奈良の不退寺では、歌人、業平の霊を慰めるために、古く、ハソウが吹かれたと言われています。それにならって、平成10年5月の業平忌に、ハソウによる供養が行われました。法要に参加した私は、ハソウを酒器としてだけでなく、「平安」の思いが込められた楽器として、現代によみがえらせたいと決意しました。あなたが、ハソウの心を伝えて下さることを、とてもうれしく思います。

その気持ちを込めて、あなたを「ハソウ継承者」として認定します。

「笛壺 ハソウを愛する会」

会長 坂口 憲一郎 (宗憲)

E-Mail : sakaken1943@gmail.com